

政策評価書（要旨） （事後の事業評価）

事業名	99式空対空誘導弾（改）	担当部局	経理装備局システム装備課
政策体系	4-1 研究・開発	実施時期	平成22年1月～3月

事業の内容 現有の99式空対空誘導弾（中距離空対空誘導弾）の機能・性能を向上させた99式空対空誘導弾（改）を開発する。	事前評価							
	14	15	16	17	18	19	20	完了年度
	←	試	作	→				平成19年度
					←	試験	→	経費総額
								約55億円
	事後評価							
	14	15	16	17	18	19	20	完了年度
	←	試	作	→				平成20年度
					←	試	験	→
								経費総額
								約62億円

評価の内容

事業の目的

諸外国の中距離空対空誘導弾は段階的な能力向上を推進しており、航空自衛隊で装備している99式空対空誘導弾（中距離空対空誘導弾）は、攻撃範囲、母機残存性、耐妨害性等の機能・性能が今後相対的に低下することが予想される。したがって現有の99式空対空誘導弾の機能・性能を向上させた99式空対空誘導弾（改）を開発し、航空優勢の獲得に寄与することを目的とする。

達成状況

①達成効果

下記の能力向上等を行うことで、攻撃範囲や発射母機の残存性、耐妨害性等を向上させた99式空対空誘導弾（改）を開発することができた。

- ア 横行目標対処能力の向上
- イ 巡航ミサイル対処能力の向上
- ウ スタンドオフレンジの延伸
- エ E C C M（対電子戦）能力の向上
- オ 量産単価の低コスト化

②達成時期

平成14年度から18年度にかけて試作、平成16年度から20年度にかけて試験を実施し、所要の機能・性能を有することなどを確認した。

③教訓等事項

本事業を通じて、中距離空対空誘導弾の能力向上に関する技術を獲得し、試験においてこれらの有効性を確認した。

今後の対応

今後、航空自衛隊の戦闘機部隊への整備を行う。

その他の参考情報

平成13年度 事前評価「99式空対空誘導弾（改）」